



2月度の御書

「妙一尼御前御消息」 (冬は必ず春となるの事)

御文

法華経を信ずる人は冬の
ごとし。冬は必ず春となる。

(御書新版1696ページ、御書全集1253ページ)

意味

法華経を信じる人は冬の
ようなものである。冬
は必ず春となる。

信心を貫けば、温かい希望あふれる人生に

みんな、こんにちは！ ボクはライオン博士のキング君。

今日、学ぶ御書は、日蓮大聖人から「妙一尼さん」という、あるお母さんに送られたお手紙だよ。

当時、妙一尼さんには、まだ小さい子どもたちがいて、その中には病気の子もいたんだ。それに、妙一尼さん自身も体が強くなかった。また夫は、すでに亡くなっていて、毎日の暮らしも大変な状況だったんだ。

もしかしら、妙一尼さんは「この弱い体で、大切な子どもたちを守れるかな……」と、さびしく心細い気持ちになることもあったかもしれないね。特に、わが子が病気に苦しんでいる姿を見るのは、何よりもつらかったと思う。

大聖人は、そんな妙一尼さんのことを、とても心配されていたんだ。妙一尼さんの毎日は弱気になることの連続で、それはまるで寒くて厳しい冬のような感じだ。冬がいつ終わるかは、トンネルの出口がいつまでたっても見えない時のように、分からなくて不安だ。

けれど、冬のあとには必ず春が来る。絶対に秋に逆もどりすることはない。

それと同じように、信心を貫いた人の人生は必ず、明るくて、温かい希望でいっぱいになる。絶対に幸せになれる！ 大聖人は、そう確信をこめて「冬は必ず春になります」とはげまされたんだ。

そして亡くなった夫のことも、「大聖人や妙一尼さんといっしょに、信心根本に生きぬいた人生は大満足だったと確信しています。いつも、あなたたち家族のそばにいますよ」と言ってくれたんだ。

妙一尼さんは心から安心し、お題目をたくさん唱えて「子どもたちを立派に育ててみせる！」「私の信心で必ず病気を治してみせる！」と、勇気をふるい起こしたと思う。お題目は、心を強く大きくしてくれるよね！

池田先生は「皆さん方は、希望の春を呼ぶ、信心という最高の心の太陽を持っています。何も恐れることはありません。何があっても、自分らしく明るく朗らかに、負けじ魂を燃やして挑戦してください」と語られたよ。

ボクたちは、何があっても負けない師子の子！ 大聖人や池田先生のように、太陽のような温かい心で、周りの人たちにも希望を送っていこう！